

実施要領 様式11(第13条関係)
【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成20年1月17日

【評価実施概要】

事業所番号	290100056
法人名	有限会社サン・ショウ
事業所名	サングループホーム横内
所在地	青森市横内字若草13-2 (電話) 017-728-0001
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年9月21日

【情報提供票より】(平成19年8月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年12月12日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	7 人	常勤 4人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造2階建	造り
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000/42,000 円	その他の経費(月額)	理美容代実費ほか 円
敷金	有(96,000/84,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,500 円	

(4) 利用者の概要(8月22日現在)

利用者人数	0名	男性 名	女性 名
要介護1		名	要介護2 名
要介護3		名	要介護4 名
要介護5		名	要支援2 名
年齢	平均 歳	最低 歳	最高 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森山内科クリニック、せきの歯科医院、青葉こころのクリニック
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設してまだ間もないが、『明るく、仲良く、楽しく』地域との密接なつながりを大事にしなが、共に助け、仲良く楽しい笑顔あふれる利用者、家族が明るく和を育てる日常生活を送る」という理念を実現するために、様々な外部研修に参加したり、他グループホームでの職員研修を行う等、職員の質の向上に努めている。

法人母体である薬局グループのネットワークを活かし、薬剤師を始め栄養士、医療機関、顧問弁護士等の様々な業種との連携が図られているほか、全職員が心肺蘇生の研修を受講した上でAED(自動体外式除細動器)を設置する等、利用者の安心につなげられるような体制が整えられている。

職員は外部研修等を通して虐待や身体拘束について理解を深めるほか、利用者が出入りする場所には鍵をかけないケアを実践している。利用者の外出傾向を察知できるよう見守りを行ったり、無断外出時に備えて警察署や消防署、近隣の他グループホームから協力が得られるよう働きかけを行う等の取り組みも行われている。

【特に改善が求められる点】

虐待や身体拘束のないケアに努めているが、虐待を発見した場合の対応や、やむを得ず拘束を行わなければならない場合の記録様式等を整備してはどうか。

開設して間もないこともあり、運営推進会議はまだ実施されていないが、今後会議を開催した時には委員の意見を引き出し、より良いホーム運営につなげていくことに期待したい。

災害時に備えて夜間を想定した避難訓練を行う等の取り組みは行われているが、数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意すると更に安心なのではないか。

感染症予防・対策マニュアルを整備しているが、職員の更なる理解を深めるために勉強会を開催したり、家族への情報提供を行う等の取り組みに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 今回初めて外部評価を実施しており、評価結果が出た際には結果を今後のケアに活かす予定となっている。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 管理者及び職員は評価の意義や目的等を理解しており、自己評価は職員全員で話し合っており、実施している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議はまだ実施されていないが、外部評価後に第1回目を開催する予定である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11) 面会時や電話等で利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理状況等を家族に報告している。また、面会時には家族が意見等を話しやすいような雰囲気作りに努めている。ホーム内外の苦情受付窓口や苦情への対応手順が明示されており、家族から意見が出された時は職員会議で話し合い、改善につなげる仕組みとなっている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会の協力を得てホームのチラシを回覧する等、地域との交流を図るための取組みが行われている。また、見学やボランティアを受け入れるほか、在宅介護支援センター主催の高齢者介護等に関する講習に職員が協力する等、ホームの機能を地域に貢献する取組みも行われている。

【各領域の取組状況】

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解しており、全職員で話し合っており、地域との関わりを意識した理念を掲げている。また、地域の協力を得ながら理念の実現に向けて取り組んでいる。 利用者へのケアについては担当制を取り入れており、基本的には担当は替えない方針をとっているが、異動等を行う時には書面や口頭での引き継ぎ、利用者や家族への説明を行う仕組みとなっている。 グループホーム協会に加入して研修に参加したり、研修に参加したことをきっかけとして他のグループホーム職員との連絡を取る等、積極的にネットワーク作りに取り組んでいる。
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	利用者が安心してホームでの生活を開始できるように、職員が利用希望者宅を訪問したり、体験入居や見学を行ってもらう等、馴染みの関係を築いた上で利用につなげる取組みが行われている。 職員は利用者と日常生活を共にすることで一人ひとりを理解するよう心がけるほか、利用者の得意分野を暮らしの中で活かしてもらう等、一緒に生活する関係作りを行っている。
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	介護計画作成時には、利用者及び家族等の意見や要望、職員の意見や気づき等を取り入れており、利用者本位の計画となっている。利用者が入居して間もないため、計画の見直しはまだ行われていないが、見直し時には再アセスメントを実施する予定である。 利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援するほか、協力医療機関にいつでも相談できる体制が整えられている。重度化や終末期のケアには対応していないが、体調変化時の対応に関する取り決めが作成されている。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	利用者一人ひとりがその人らしい生活を送れるよう、個人情報やプライバシーに配慮したケアを提供するよう努めている。また、共用空間に家庭的な調度品を置いたり、居室に馴染みの物を持ち込んでもらう等、利用者が落ち着いて過ごせる空間作りも行われている。 食事の準備等、利用者が得意なことは役割として行ってもらったり、利用者が希望する場所に出かけるなど、利用者が楽しんで生活できるよう配慮している。 系列会社の栄養士の指導を得て献立を作成しているため、バランスのとれたものとなっているほか、一日の食事等の摂取量を把握して健康管理に努めている。

評 価 報 告 書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解しており、『明るく、仲良く、楽しく』地域との密接なつながりを大事にしながら、共に助け、仲良く楽しい笑顔あふれる利用者、家族が明るく和を育てる日常生活を送る」という理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員で話し合っ作成しており、全職員が共通理解の基で日々のケアを提供している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	開設間もないが、町会の協力を得てグループホーム紹介のチラシを回覧したり、地域住民の見学や個人ボランティアを受け入れる等、地域にホームを理解してもらえるよう取り組んでいる。また、在宅介護支援センター主催の地域住民を対象とした高齢者に関する講習に職員が協力する等、ホームの機能を地域に還元する取り組みも行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は評価の意義や目的等について理解を深めており、自己評価を実施する時には全職員で取り組んでいる。また、今回が初めての外部評価であり、評価結果が出た際には結果を今後のケアに活かす予定となっている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設間もないこともあり、運営推進会議はまだ実施されていない。	○	会議開催時には、より良いホームの運営につなげるための委員との積極的な意見交換を行うことに期待したい。
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	パンフレットやホームの紹介紙を配布し、ホームを理解してもらえるよう取り組んでいる。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者及び職員は、外部研修を通して地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について理解を深めており、必要に応じて利用者や家族に情報提供できる体制が整えられている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は外部研修に参加し、高齢者虐待防止法について理解を深めている。虐待を未然に防ぐよう、管理者が職員のケアの提供場面を観察する等の取り組みを行っているが、虐待を発見した場合の対応方法等に関する取り決めが作成されていない。	○	虐待を発見した場合の報告の流れや対応等について取り決めを作成し、それを全職員に周知することに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、契約書や重要事項説明書を基に利用者や家族等にわかりやすく説明を行って納得してもらい、書面での同意をもらっている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や電話等で利用者の暮らしぶりや健康状態、受診状況等を家族に報告している。また、金銭管理の状況については出納帳に記録し、領収証を添付して報告している。職員の異動がある時にはホーム便りで報告することになっている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時には、家族が意見や要望等を話しやすいような雰囲気作りに努めている。また、ホーム内外の苦情受付窓口を明示しているほか、家族から意見等が出された場合の対応手順も定められている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当制を導入しており、基本的には担当は替えない方針となっている。今後、職員の異動等がある場合には、書面や口頭での引き継ぎを行うほか、利用者や家族等への説明を行う予定となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の質の確保・向上につなげるため、職員を積極的に外部研修に派遣している。受講後は研修報告書を基に全職員への周知を図っているが、年間の研修計画を策定するまでには至っていない。	○	全職員が平均的に個々の能力や希望に応じた研修を受講できるよう、研修主催団体に問い合わせる等の取り組みを行い、内部・外部研修の年間計画を策定してはどうか。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入して研修に参加したり、他グループホームでの職員研修等を行っている。また、研修に参加したことをきっかけとし、他のホームの職員との連絡を取る等、積極的にネットワーク作りに努めている。交流等を通じて得た気づきや知識はホームの運営に反映させている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前には見学や体験入所を行い、利用希望者や家族等と十分に話し合いを行うほか、職員が利用希望者宅を訪問する等、徐々にホームや職員に馴染めるよう対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と日常生活を共にすることで一人ひとりを理解するよう心がけるとともに、個々の得意分野を暮らしの中で活かしてもらおう等、一緒に生活する関係を築くよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望、意向等を把握するために、日々の会話やケアの中から引き出すよう努めるほか、家族等からの情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には、利用者や家族の意見を聞くほか、職員の気づき等を取り入れており、個別の具体的な目標が掲げられた計画となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間が明示されており、期間終了後には見直しを行うほか、利用者の状態等に変化があった場合には、実施期間に関わらず随時見直す仕組みとなっている。見直し時には、利用者や家族、職員の意見等を再度把握する予定となっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体験入所や家族等の宿泊を受け入れている。また、法人グループ内の薬剤師を始めとした様々なネットワークを活用し、地域に貢献する事業を実施する予定も立てられている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの受療状況を把握しており、利用者や家族が希望するかかりつけ医での受診を支援している。また、体調変化や心配事がある場合は協力医療機関に気軽に相談できる体制となっている。家族との連絡を密に取り合っており、受診結果は家族との共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアには対応していないが、体調急変時には協力医療機関との連携を図る等の取り決めが作成されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言動を否定したり、拒否することなく対応するほか、介助時には利用者の羞恥心に配慮したケアを心がけている。また、職員は外部研修等を通して個人情報保護法について理解しており、個人に関する書類は事務室に保管する等の配慮が行われている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かすことなく、日々の体調や精神状態に合わせて、利用者本位のペースで過ごせるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時には利用者の嗜好を取り入れるほか、料理の下ごしらえや配膳等、利用者にも手伝ってもらっている。また、職員は利用者と一緒にテーブルに座り、和やかに会話を楽しみながら食事を摂っており、職員はさりげないサポートを行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回の入浴となっているが、温泉であるため、希望に応じていつでも入浴することができる。入浴時は利用者の健康や羞恥心に配慮し、入浴時間が長くないよう見守りを行っている。今のところ入浴を拒否する利用者はいないが、足浴を行うケア方針となっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の関わりや家族等からの情報により、一人ひとりの得意なこと等を把握しており、食事の準備等を役割や楽しみごととして行ってもらっている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑に出かけたり、広い敷地内の庭を散歩するほか、ドライブや買い物に出かける等、利用者の体調や精神状態に合わせて外出の機会を頻繁に設けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修を通して身体拘束について理解を深め、拘束をしないケアを提供する方針であるが、やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備えて、理由や方法、期間、経過観察等の記録様式や家族等の同意を得る様式等が整備されていない。	○	やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備え、理由や方法、期間、経過観察等を記録する様式を整備するとともに、家族等の同意を得る様式を整備することに期待したい。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を施錠しておらず、ホーム内も居室を始め利用者が出入りする場所は施錠していない。外出傾向を察知できるように常に見守りを行っており、察知した時は職員が付き添う方針となっている。また、無断外出時には警察署や消防署、近隣の他グループホームの協力が得られる体制が整備されている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て定期的に避難訓練を実施している。また、夜間を想定した訓練を実施するほか、緊急時の通報システムを完備したり、連絡体制を整備している。災害時の避難施設は完備しているが、食料等の備蓄品を用意するまでには至っていない。	○	災害時に備えて数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意してはどうか。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列会社の栄養士の指導の下、栄養バランスやカロリーに配慮した献立を作成している。また、1日の摂取カロリーや水分摂取量を把握し、利用者の体調変化等、必要に応じて記録する仕組みとなっている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防・対策マニュアルを整備しており、流行性や新型の感染症に関する情報等が保健所などから入った時は見直しを行う体制となっているが、職員の理解を深めるための内部研修の実施や家族への情報提供を行うまでには至っていない。	○	より適切に感染症への対応を行えるよう、定期的に勉強会を行ってはどうか。また、ホーム便り等を活用して家族への情報提供を行うことにも期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間等には家庭的な調度品を置くほか、玄関には花や職員が作成した掲示物等を置いており、落ち着いた空間となっている。また、職員が立てる音や会話は騒がしくなく、ホーム内の日射しや室温も適切に調整されている。		
34	78	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居心地良く過ごせるよう、馴染みの物の持ち込みを家族等に働きかけており、電化製品や人形、小物等が持ち込まれている。また、利用者と職員と一緒に摘んだ草花をポプリにして飾る等、その人らしい居室作りが行われている。		

※ は、重点項目。